

※展覧会の名称は変更する場合があります。

永遠の少年、ラルティエグ — 写真は魔法だ! —

Jacques Henri Lartigue — La Photographie, c'est magique! —

平成30年4月21日(土) — 6月3日(日)

プレスリリース

細見美術館

永遠の少年、ラルティエグー 写真は魔法だ！ー

Jacques Henri LartigueーLa Photographie, c'est magique!ー

会期 平成30年
4月21日(土)ー6月3日(日)

開催趣旨

2018年は日仏友好160周年、さらには、京都市とパリ市が友情盟約締結60周年を迎えます。この記念すべき年に、当館はフランスの偉大なアマチュア写真家 ジャック＝アンリ・ラルティエグの写真展を開催する運びとなりました。

フランスの裕福な家庭に生まれ育ったジャック＝アンリ・ラルティエグ(1894-1986)が、写真好きの父親から三脚付きの暗箱カメラを与えられたのは7歳のときでした。身の回りのさまざまな瞬間を残せる「カメラ」は、ラルティエグ少年にとってまさに“魔法の機械”だったのです。大好きな猫、自動車、飛行機といった動きのあるもの、時には心霊写真に挑戦するなど、彼のあくなき探求心はこの魔法の機械で、様々な作品を生み出してきました。ラルティエグはこの他にも、家族や友人、恋人とのひと時をとらえた作品や最新モードに身を包む女性たちやその社交場など、様々な輝かしい瞬間をとらえています。

本展では、彼の幼年時代から晩年までの代表的な作品や、日本初公開となるカラー作品などを通して、写真をたのしみ、過ぎゆく時間や人生の歓びを捉えようとしたラルティエグの世界を紹介していきます。



フロレット ヴァンス 1954年



おばあちゃん、ママ、ジスーと愛用のカメラを持ったばく(ババ)撮影 プーローニュの森、パリ 1903年

ジャック＝アンリ・ラルティエグ (1894-1986)

20世紀初頭のフランスのアマチュア写真家。1894年、フランスのパリ郊外クルブヴォワの非常に裕福なブルジョワの家庭に生まれる。

幼年時代に父親に買い与えられた木製ビューカメラに夢中になり、生涯にわたって日常の幸せな瞬間を記録し続けた。1963年、ラルティエグ69歳の年に、ニューヨーク近代美術館で開催された大規模な回顧展で一躍脚光を浴びる。70歳を目前にしたあまりにも遅咲きのデビューは、世界中に大きな衝撃を与えた。以来、この「偉大なるアマチュア写真家」の展覧会、出版が世界各地で相次ぎ、現在では写真の巨匠としてその名前は、写真史に大きく刻まれている。



主な作品

小さな探求心



ぼく (パヴァ撮影) ボン・ド・ラルシュ 1903 年
ガラス乾板／9 x 12cm 判 258 x 358mm



いとこのビジョナード コルタンベール通り 40 番地、パリ 1905 年
ステレオ写真、ガラス乾板／6 x 13cm 判 235 x 290mm



A.C.F. グランプリ ル・トレポー 1912 年 6 月 26 日
ガラス乾板／9 x 12cm 判 225 x 340mm

被写体へのまなざし



ドラッグ競馬の日、オートウイユ競馬上にて パリ
1911 年 6 月 23 日
ガラス乾板／9 x 12cm 判 275 x 365mm



ダニとミションとボビー、フリボールクラブにて カンヌ 1936 年 5 月
ネガフィルム／6 x 6cm 判 220 x 270mm



リチャード・アヴェドン ニューヨーク 1966 年
ネガフィルム／6 x 6cm 判 156 x 158mm

色彩表現



フロレット ヴァンス 1954 年
リバーサルフィルム／6 x 6cm 判 356 x 360mm



フロレットの手 ブリー・ル・ネフィエ 1961 年
リバーサルフィルム／6 x 6cm 判 219 x 220mm



ポーソレイユ 1958 年
リバーサルフィルム／6 x 6cm 判 270 x 310mm



基本情報

主催：細見美術館
京都新聞

特別協力：ジャック=アンリ・ラルティエグ財団

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

協力：株式会社便利堂

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

日本カメラ博物館

企画協力：CONTACT

入館料：一般 1,300円 (1,200円)

学生 1,000円 (900円) ※()内は20名様以上の団体料金

休館日：毎週月曜日 (祝日の場合、翌火曜日)

開館時間：午前10時～午後6時 (入館は、午後5時30分まで)

会期中のイベント

■「第43回 アートキューブレクチャー」(有料・事前申込制)

講師：井口芳夫氏 (日本カメラ博物館 学芸員)

日時：5月12日(土) 午後2時～

会場：京都市勤業館 みやこめっせ



CONTACT

今春、カラー写真を楽しめる展覧会が関西に集結！
ぜひ、まわってみよう！！

伊丹市立美術館

「ニューヨークが生んだ伝説
写真家ソール・ライター展」

4月7日(土)～5月20日(日)



© Mariko Hirasawa

美術館「えき」KYOTO

「蜷川実花写真展
UTAGE 京都花街の夢
KYOTO DREAM of KAGAI」

4月14日(土)～5月13日(日)

細見美術館

「永遠の少年、ラルティエグ
一写真は魔法だ!」

4月21日(土)～6月3日(日)



詳しくは、CONTACTホームページへ。
<http://www.contact-tokyo.com/>

お問合せ先： ■ 担当学芸員 伊藤京子 gakugei@emuseum.or.jp
■ 広報担当 三宅由紀 kouhou@emuseum.or.jp